

支部だより

●東北支部●

昭和54年度後半は、支部の持つエネルギーの大半を、去る3月末の研究発表会の準備に費したというのが、東北支部の偽わらざる実情である。この間、支部における研究会の開催は活発にはいえなかったものの、会員が顔を合わせる機会はいきわめて多く、別の意味でうところがあった。

回数こそ少なかったが、次のような有益な研究会を持つことができた。

月 日 1979年7月31日

テーマ TIMS国際会議に出席して

講師 東北大学経済学部 高橋幸雄氏

昨年6月18日から22日まで、ハワイのホノルルでTIMS国際会議が開催され、東北支部の高橋氏が出席された。帰国直後、この会議に関するホット・ニュースを拝聴することができた。その詳細については、高橋氏が昨年の本誌8月号で述べており、重複するので、ここでは繰り返すことは避けたい。

月 日 1980年3月1日

支部結成以来、当支部での研究会等は、前回まですべて仙台地区で開催されてきた。昨年来、岩手大学工学部の菅野文友氏の努力により、この日仙台を離れて盛岡で研究集会を開催することができた。

テーマ 点接続電子計算機網の構成における待ち行列

講師 岩手大学工学部 吉岡良雄氏

現在、吉岡、菅野両氏により点接続計算機網のモデル実験システムが、マイクロコンピュータを用いて作成されており、そのノードモデルについて解説された。

テーマ マルコフ決定理論と確率モデル

講師 岩手大学人文社会科学部 船木洋一氏

マルコフ決定理論では、通常目的関数として、期待値を用いるものが扱われてきた。現実の問題において、期待値による基準では不十分な場合があり、新たな基準を提唱された。

テーマ ソフトウェア・エンジニアリングにおける2、

3の話題

講師 岩手大学工学部 菅野文友氏

ソフトウェア・エンジニアリングにおける問題点として、プロジェクト管理（工程管理、原価管理）、品質管理、要因管理等を挙げて解説された。

テーマ 多能ロボットの試作

講師 岩手大学工学部研究課程 鈴木譲氏

人間とロボットを1つのシステムと考え、両者をまとめて工程に組み込むことを考える。ロボットの機械的思考を人間が補ない、疲労による人間の注意力の低下等をロボットが補なうためには、両者の意志疎通が必要である。このような自立性と対話機能を持つ多能ロボットの開発について報告された。

テーマ 生産ラインの並列化について

講師 岩手大学工学部 井山俊郎氏

生産ラインにおける生産率を向上させる方法として、Bufferの導入が考えられるが、これ以外の方法も同時に考慮する必要がある。その一方法として、生産ラインの並列化を考え、その効果について述べられた。

特別講演

テーマ 中国における電子計算機事情——武漢大学を中心として——

講師 武漢大学 何克清氏

武漢大学は中国の主な大学の1つで、4年制の大学として、学生数は約4000、教職員数も約同数とのことである。1970年、数学部に計算技術専攻が設置され、1977年に独立して計算機科学部の創立となった。（わが国の大学における学部とは形式が異なるように思われる。）現在、2ハードウェア研究室と2ソフトウェア研究室があり、他に計算機工場、2実験室（ハードウェア）および学部図書室を有しているという。

1971年からGNBシリーズコンピュータI、II、IIIを開発してきた。GNBは中国語の工、農、兵の音読で、現在の中国の動向をうかがい知ることができるように思える。また、次のような項目が現在研究中であるとのことであった。

コンピュータ・ネットワークに関する研究

分散処理システムに関する研究

中国電子計算機教育に関する研究

人工知能（定理の機械証明）に関する研究

計算の複雑性に関する研究